

○ 中間評価の結果について

<平成21年度指定校（計9校）>

- ・「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいを十分達成している」（4校）

〈学校名〉

千葉県立船橋高等学校

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

兵庫県立三田祥雲館高等学校

岡山県立岡山一宮高等学校

- ・「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいをおおむね達成している」（5校）

〈学校名〉

北海道室蘭栄高等学校

市川学園市川高等学校

神奈川県立神奈川総合産業高等学校

福井県立藤島高等学校

大阪府立三国丘高等学校

<平成22年度指定校（計36校）>

- ・「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいを十分達成している」（12校）

〈学校名〉

埼玉県立春日部高等学校

千葉県立長生高等学校

東京工業大学附属科学技術高等学校

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

京都教育大学附属高等学校

京都市立堀川高等学校

奈良女子大学附属中等教育学校

岡山県立倉敷天城高等学校

広島県立広島国泰寺高等学校

徳島県立脇町高等学校

福岡県立小倉高等学校

長崎県立長崎西高等学校

- ・「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいをおおむね達成している」（22校）

〈学校名〉

北海道旭川西高等学校

北海道札幌啓成高等学校

青森県立三本木高等学校・附属中学校

青森県立八戸北高等学校

宮城県仙台第三高等学校

秋田県立横手青陵学院中学校・高等学校

福島県立会津学鳳高等学校

山梨県立都留高等学校

長野県飯山北高等学校

京都府立桃山高等学校

立命館高等学校

大阪府立生野高等学校

大阪府立千里高等学校

大阪府立豊中高等学校

兵庫県立明石北高等学校

兵庫県立尼崎小田高等学校

山口県立徳山高等学校

高松第一高等学校

愛媛県立松山南高等学校

福岡県立城南高等学校

大分県立大分舞鶴高等学校

鹿児島県立錦江湾高等学校

- ・「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいをあまり達成していない」（2校）

〈学校名〉 早稲田大学本庄高等学院

長野県諏訪清陵高等学校

○ 中間評価講評

<平成21年度指定校>

1	北海道室蘭栄高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との連携が充実したものとなっている。 ○ 3年生での取組の充実を図る必要がある。 ○ 理数科での取組を学校全体に拡げることを期待する。 ○ 地の利を生かして、地域の自然を教材として取り組んでおり、地学に関する教科も含め幅広い科目の開設と、教材をまとめて情報発信することを期待する。
2	千葉県立船橋高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理数系科目に重点を置いたカリキュラム、探究力の育成に重きをおいた取組であり、その効果も現れてきている。 ○ 高大接続についてはさらなる取組が必要である。 ○ 開発された様々な教材を、HPなどで情報発信する必要がある。 ○ 生徒の部活動が充実しており授業とうまく連携させていくことを期待する。
3	市川学園市川高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理工系のネイティブの英語教員を配置するなど、国際性や語学力の育成を重視している。 ○ 学校設定科目が「市川サイエンス」だけであり、教育課程にさらなる工夫が必要である。 ○ 高大接続の取組が必要である。 ○ 数学における探究活動を推進することを期待する。
4	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理数系クラブが充実してきている。 ○ プロジェクトマネジメントの手法を取り入れて、それを柱に研究を全校で行っている点は興味深いですが、今後、その手法の有効性や、成果と課題を明確にする必要がある。 ○ 語学教育や国際性の育成などに関する取組を強化する必要がある。 ○ 大学との連携や接続を意識した取組を行っており、今後の成果を期待する。
5	福井県立藤島高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な活動を進めることで、通常の教科、科目の指導方法の変化も見られ、SSHの取組が学校全体に浸透している。 ○ 3年生での取組の充実が必要である。 ○ 国際性の育成の充実が必要である。 ○ 課題研究を通じた生徒の問題発見力・自発性の育成と通常の教科科目学力育成の関連性、相互活用の研究等を期待する。
6	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命論や環境論など、科学技術の役割を理解させることやキャリア教育の観点から取り組まれている。 ○ 異学年の集団で同一のテーマを研究することで、研究の継続性、深化が見られる。 ○ 他校との交流はあるが、今後近隣の小中学校、地域との交流を視野に入れて取り組む必要がある。

		<ul style="list-style-type: none"> ○ P I S Aの質問項目を参考に取り組むなど他校にも参考となる事例も多く、開発した教材も含めて、積極的な情報発信を期待する。
7	大阪府立三国丘高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ S S H指定以降、教員の授業に対する意識が良い方向に変化している。 ○ 1, 2年生は全生徒を対象にしており、そこで培った力を3年生でも全生徒が伸ばすことができるような配慮や取組が必要である。 ○ 研究開発において、どのような課題に対し、どのような改善を行ったのか明確にする必要がある。 ○ H Pは細かく更新し、取組の状況を周知しており、他校に参考になる情報も多く、一層H Pの内容の充実を期待する。
8	兵庫県立三田祥雲館高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校体制で探究的な活動に軸足を置いた教育課程の編成が行われている。 ○ 探究課題の選定に際し、生徒の興味・関心や自発性をより活かすことができるような配慮が必要である。 ○ 天文部の充実した活動とは異なり、十分活動できていない領域の部活動を新設することなどを期待する。 ○ 評価方法の検討を行い、より客観性の高い結果を導き出すことを期待する。
9	岡山県立岡山一宮高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織体制が構築され、全教職員で取り組んでいる。 ○ 専門家による分析が適切に行われており、それをもとに工夫・改善が図られているが、教員が分析へ積極的に関わることが必要である。 ○ 理数系科目に重点を置いた科目を工夫して開設し、自校で作成した「科学的リテラシー」の教材を用いた指導が行われているが、更に論理的思考に関わる内容を充実することを期待する。 ○ 評価については、生徒の質的な変容を把握し指導に生かすような取組を充実させることを期待する。

<平成22年度指定校>

1	北海道旭川西高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施しながら課題点を見いだして取組を修正するとともに、改善に運営指導委員会に関わるなど、継続的に事業の見直しと改善を行っている。 ○ 教育課程の編成は工夫して学校設定科目が開設されているが、今後は普通科や通常の授業への普及の仕方を検討する必要がある。 ○ 高大連携は行われているが、今後は高大接続の取組が必要である。
---	------------	--

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際性を高める取組では、課題研究の英語による発表まで実施されており、優秀なものについては、海外で発表することを期待したい。
2	北海道札幌啓成高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施した取組の成果や課題について分析が行われている。 ○ コンテスト等への参加は不十分であり、改善が必要である。 ○ 理数系科目に重点を置いたカリキュラム編成、学校設定科目の開設を行っているが、SSHの対象生徒だけでなく、全校の生徒が履修することを期待する。 ○ 科学英語の取組をはじめとして国際性の育成の取組も行われており、海外で発表する機会を設けることを期待する。
3	青森県立三本木高等学校・附属中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校段階から語学力の強化に取り組んでおり、ALTを活用し、英語で理科の授業を行うなど、地域の特性に応じて、国際性を育てる取組を行っている。 ○ 中高が連携した教科統合型のカリキュラムの研究開発の成果について、SSHのねらいと関連して有効なものなのか、学びの有効性と開設科目、指導との関係から分析する必要がある。 ○ 意欲、実行力、プレゼンテーション力等、向上といった課題研究の成果を学習力向上に結びつける取組を期待する。 ○ 科学部などの部活動の充実を期待する。
4	青森県立八戸北高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青森サイエンスセッションなど、地域と連携した取組を行っている。 ○ 理科を専門とするALTを活用し、科学英語力の向上を図っているが、成果等を分析する必要がある。 ○ 課題研究を通しての探究力の高まりの効果を裏付ける必要があり、多くの生徒が課題研究を学習できる工夫が必要である。 ○ 学校設定科目の「SSアクティビィ」を他校でも実践できるような教材とすることを期待する。
5	宮城県仙台第三高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学と共同で「授業づくりプロジェクト」を開始し、理数系教科だけでなく全ての教科で教員の授業力の向上を目指している。 ○ 国際性の育成に関しては、生徒からの評価も低く、取組内容等の再検討が必要である。 ○ 課外研究は多くのテーマで研究されており、コンテスト等様々な場面での発表を期待する。 ○ 高大接続の面ではまだ課題が残り、一層の取組を期待する。
6	秋田県立横手青陵学院中学校・高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイエンスカフェ、地元ラジオ局とのタイアップなど、情報発信に力を入れている。 ○ 「探究」を理数以外の生徒にも実施していることは評価できるが、3年生での取組が十分でなく、3年間を通した取組とす

		<p>る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現時点での課題を分析して、中高一貫の学校の特色が出るよう評価方法などを再検討する必要がある。 ○ 目標や目的をシンプルにして、焦点を絞り、学校独自の柱を作ることを期待する。
7	福島県立会津学鳳高等学校・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業として7つの取組をしており、中でもコンピュータリテラシーについては、中学校段階から積極的にその獲得プログラムを取り入れている。 ○ 対象生徒が少ないことも要因と考えられるが、学校全体の取組とは言い難く、各教員の役割を明確にするなど組織の見直しが必要である。 ○ 運営指導委員会から受けた指導・助言を反映する取組が必要である。 ○ 国際性を育てるための語学力の強化を期待する。
8	埼玉県立春日部高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特徴ある理数系科目に重点を置いた教育課程が編成され、学校全体で組織的に事業を展開している。 ○ SSHの授業の取組成果を学校全体の授業へ普及するとともに、3年生での取組が「論文作成」のみとならないよう、更に充実する必要がある。 ○ 教育センターの協力を一層進め、教員の研修と意識の変容なども分析することを期待する。 ○ 生徒の意識も変容しているが、SSHの学習との関係について検証することを期待する。
9	早稲田大学本庄高等学院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際性を高めることや語学力の強化に取り組んでいる。 ○ 学校全体の組織的な取組とするとともに、不十分となっている教員の指導力向上や理系人材育成の課題の分析を行い、早急に改善を図る必要がある。 ○ 教員の視点（関心）に基づく課題研究となっており、生徒の視点（関心）による科学的探究活動を促進する必要がある。 ○ 大学との連携・接続について、大学の附属校である強みを生かした取組を期待する。
10	千葉県立長生高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学、企業や研究所との連携が活発に行われている。 ○ 地域への広報の不足などを改善することを通して地域の教員と理科教育の向上に取り組むなど、効果的な改善が行われている。 ○ 事業の評価に関して分析は行っているが、数値にできる部分は数値化するなどより客観的に評価していくことが必要である。 ○ 国際性を高めるため試み（TV会議、英語での授業）は、ユニークであり、アジアでの高校ネットワーク拠点モデル校との発展を期待する。
11	東京工業大学附属科学技術高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他校の参考になる独自の教材を開発し、それをもとに授業が行われている。

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各コンテスト等に積極的に参加し、成果をあげている。 ○ 今後事業を効果的に推進していくために、生徒の意識の変容、教員の意識の変容について、事前・事後の調査を実施し、定量的に把握しておく必要がある。 ○ 他校との連携は行っており、今後は地域や小中学校への啓発や普及も検討する必要がある。
1 2	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際性の取組をはじめ、全体の取組が充実している。 ○ 開発した教材を公開する必要がある。 ○ 高大接続の取組をさらに充実したものにすることを期待する。 ○ 教員の人事異動に対応しながらシステムを継続・維持していくモデルを確立することを期待する。
1 3	山梨県立都留高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの生徒がコンテスト等に参加し実績を残している。 ○ 英語力強化の取組が必要である。 ○ 生徒の変容をアンケート調査し、それを的確に分析しながら取り組んでいることは評価できる。SSHでの取組を対象生徒以外にも広げる取組を期待する。 ○ 理数系科目における高度な内容の取組に限らず、サイエンスや数学への興味を広げる取組も充実することを期待する。
1 4	長野県飯山北高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科横断で教員の指導力向上に取り組んでいる。 ○ 大学で必要とされる能力について検討し、そのような能力を高校で育てるにはどのような指導が必要か考察するなど、大学との連携や接続について検討する必要がある。 ○ 部活動の充実や科学系コンテスト等への参加を充実する必要がある。 ○ 充実した理数教育プログラムの開発と国際性の育成、及び、将来の理工系分野で活躍する高い志をもった生徒の育成と、普通科生徒の理数教育の充実を期待する。
1 5	長野県諏訪清陵高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学部は人数も多く、部活動の取組が充実している。 ○ SSHの取組が一部の教員の取組となっており、早急に改善の必要がある。 ○ 教員の意識が低いことの分析とその改善、教員の指導力向上のための取組が必要である。 ○ これまでに開発したものを継続的に少数の対象生徒のみに実施しており、改善が必要である。
1 6	京都教育大学附属高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の高等学校全体の科学教育の向上、高大連携による理数教員の質向上、国際交流などから得られる創造的研究能力の基盤形成に関する研究体制の構築が行われている。 ○ 理数系クラブの活動が充実しており、スーパーサイエンスクラブ（SSC）の活動は他のSSHの取組の参考になる。 ○ 「ベーシックサイエンス」で実験・観察の基本操作を学ぶこ

		<p>との効果を検証するとともに、生徒に自発的、発見的な機会を与える必要がある。</p> <p>○ I期からのSSH全体を通しての成果、特に取組を継続した結果としての生徒の変容を、よりの確に捉える必要がある。</p>
17	京都府立桃山高等学校	<p>○ 教科改編という観点で理数をひとつの教科としてとらえる発想はこれからの理数教育の方向を考える上で貴重である。</p> <p>○ 地学部だけでなくその他の理数系の活動も充実する必要がある。</p> <p>○ 大学教員等との連携など先進的な取組が行われており、このような取組を通じて指導力の向上を期待する。</p> <p>○ 地元の小中学校を中心に地域との連携が行われており、さらに近隣の高等学校との連携を期待する。</p>
18	京都市立堀川高等学校	<p>○ 自発的な探究の仕方を先に身に付けさせることによって、仕事の仕方や勉強の仕方を、生徒が自分で気がつくように教育が行われている。</p> <p>○ 探究の活動における教材の開発などは他校に参考になるものである。</p> <p>○ SSH事業の成果を継承していくことが必要である。</p> <p>○ HP等を活用して、様々な取組について積極的に情報発信を行う必要がある。</p>
19	立命館高等学校	<p>○ 国際性を高める取組として、国際的なコンテストへの参加や語学力の強化などに取り組んでいる。</p> <p>○ 生徒に期待される能力が身についたかどうかについては、具体的にいつどのように見るのかを明確にしておくことが必要である。</p> <p>○ 理数系クラブの活動が少なく今後充実させていく必要がある。</p> <p>○ 大学の附属高等学校であり、大学の授業の単位を高校の単位として認定するなど積極的に連携しており、今後はカリキュラム面の接続などを期待する。</p>
20	大阪府立生野高等学校	<p>○ 委員会を隔週で開催することやベテラン教員と若手教員をペアにするなど、教員の理解や意識を高める取組や指導力向上の取組が行われている。</p> <p>○ 実験のテーマを生徒自ら考える取組もあるが、そのまとめ方については適切な指導が必要である。</p> <p>○ 体験的学習が多く実施されているが、一つ一つの体験を科学的認識もしくは理解に結びつけることが必要である。</p> <p>○ 生野高校のSSHとして取組の柱になるものを検討することを期待する。</p>
21	大阪府立千里高等学校	<p>○ 科学探究の指導に関しては、研究類型の整理や研究過程の可視化を試行したり、科学探究に対する生徒の満足度を評価したりする取組と、それらに対する分析と考察が行われている。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ SSHでの取組や成果についての情報発信を充実させる必要がある。 ○ 高大連携は行われているが、高大接続までにはいたっておらず、今後の取組が必要である。 ○ 探究力を評価する基準表を作成、それを活用した評価結果は客観的となっている。今後は探究力を育成するための教材等を作成する必要がある。
22	大阪府立豊中高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「課題研究」や「探究基礎」などについて文理科を中心に必修化を進めるなど、年度ごとに改善している。 ○ SSHについて教員の意識も大半がおおむね肯定的であり、また保護者も肯定的な評価が多く、この状態を維持するように取り組んでいく必要がある。 ○ 教員の指導力向上に向けた取組は興味深いものもあるものの、その評価がやや曖昧になっており改善が必要である。 ○ 研究仮説に基づく分析や個々の取組と評価との関係が曖昧であり、改善することを期待する。
23	兵庫県立明石北高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSHの良さを生かして、理数教育を充実させたカリキュラムを編成し、国際性の向上も含めて取り組んでおり、生徒への良い影響も現れている。 ○ 全教職員による組織的な取組ではなく、理数科の一部の教員に偏っており、改善が必要である。 ○ 3年生で探究的な内容がなくなっており、3年間を通じた取組とする必要がある。 ○ 自然科学コースの生徒だけでなく、普通科の生徒にも取組の成果を還元していくことを期待する。
24	兵庫県立尼崎小田高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校長のリーダーシップの下、SSHの取組が行われている。 ○ 生徒のアンケートで授業の中で新しい発見があると回答した生徒が8割を超えているが、検証がそれだけで終わらないようにする必要がある。 ○ 環境問題に力を入れ、コンテスト等でも入賞歴があるが、生徒のほとんどが関心を抱いていないので、実施方法や活動の周知方法などの検討の必要がある。 ○ 普通科生徒の理科教育に、SSHの実験重視の教育を反映させることを期待する。
25	奈良女子大学附属中等教育学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特色ある教材作成や、授業公開など教員の指導力向上のための取組が行われている。 ○ 大学の附属学校ではあるが、県教育委員会と連携できており、地域との連携が行われている。 ○ 国際性を強化するための取組を行っているが、生徒の国際性に対する評価は低くなっており、その要因をプログラムや教師の働きかけとあわせて分析し、改善する必要がある。

		<ul style="list-style-type: none"> ○ リベラルアーツの育成のためカリキュラム開発が中心となっており、他の中高一貫校も参考にできるようなカリキュラムとして成果を発信することを期待する。
26	岡山県立倉敷天城高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中高一貫校として6年間を見通した組織的、系統的な取組や課題研究を中心としたカリキュラム開発が行われている。 ○ 小学校での授業を行うなど、地域拠点として理科教育に力を入れているが、さらに地域の他の高校の生徒や教員の意識を高める試みも実施する必要がある。 ○ 論文評価に限らず、テーマ毎の研究活動に対するルーブリックも作成する必要がある。 ○ 国際性育成の取組の強化を期待する。
27	広島県立広島国泰寺高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種コンテストに積極的に参加し、入賞するなど成果が現れている。 ○ 研究の全体像を端的に表現し、他の学校にもわかりやすい資料とするなど、外部への情報発信が必要である。 ○ 生徒の自己評価で評価できるものと、指導者側がきちんとした観点を持って評価しなければならないものがあるが、それらを区別して成果を測る必要がある。 ○ 教員のアンケート調査では過年度と比較して変化は見られないが、指導力向上に役立ったとあり、どのような観点で自己評価しているのかを明らかにすることを期待する。
28	山口県立徳山高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH事業によって、理系を選択する生徒が増加している。 ○ 3年生での取組の充実が必要である。 ○ 取組が理数科の生徒に限られており、学校全体の取組とすることを期待する。 ○ 課題研究での取組に特色を持たせることを期待する。
29	徳島県立脇町高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究の目標を達成させるため、課題研究については、共同研究と個人・少人数研究と2回実施させており、創造性・独創性の育成を図っている。 ○ 校内組織の充実やそれを活かしての事業の推進が行われている。 ○ 事業の取組への評価がやや曖昧で生徒の自己評価に偏っており、改善する必要がある。 ○ 近隣に大学や研究所が存在しない学校での事業の進め方として他校の参考となるが、さらに大学での必要な資質や能力の育成にも力点を置くことを期待する。
30	高松第一高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員による相互授業参観を継続することで、指導観の理解や校内指導体制の改善に役立っている。 ○ SSH学校設定科目の一つである「Introductory Science」は初めて高校で科学を学ぶ生徒にとって重要な講義であるが、生徒の理解度が高くないのでサイエンスの流儀を学ばせると

		<p>いう基本を押さえ、サイエンスに興味を持たせる内容を付加していくことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運営指導委員会の委員に、授業実践者が含まれていることは再考の必要がある。 ○ SSHの諸事業を、他の通常の授業や学校活動にも活かす取組を期待する。
3 1	愛媛県立松山南高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛媛大学のスーパーサイエンスコースとの連携は他校、他県のモデルとなる。 ○ 明らかになった課題の改善を図ろうとしているが、生徒の自己評価などの多くは、情意面の自己評価であり、能力の評価をどのような観点で行うのかなど具体的な評価方法の開発が必要である。 ○ 過去のものも含めて開発した教材について、具体的に外部に広く周知していく必要がある。 ○ 「スーパーサイエンス」の成果などについて、普通科の授業や理数科の一般の理数の授業への還元を進めることを期待する。
3 2	福岡県立小倉高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者の研修会や地域での体験教室など積極的に取り組んでいる。 ○ 理数系を目指す生徒が増えているが、理系科目の苦手な生徒へのフォローも必要である。 ○ 学会等での積極的な発表や、クラブ活動の充実だけでなく、さらに研究内容の一層の充実を期待する。 ○ 理科3科目の履修は評価できるが、地学に関する科目を開設するなど更に幅広い科目の開設を可能とすることを期待する。
3 3	福岡県立城南高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境・情報・地球科学等の総合的なカリキュラムを開発している。 ○ SSH事業が「教員の指導力に役立つ、教員間の協力関係の構築や学校運営の改善強化に役立つ」と考えている教員の割合が高く、自校の取組を広く他校に情報発信する必要がある。 ○ 部活動やコンテストへの参加を増やすことが必要である。 ○ 大学との連携等は積極的に行われており、その成果の検証を期待する。
3 4	長崎県立長崎西高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文系生徒を対象とした「課題研究講座」など多様な科目が開設されており、学校全体としてSSHの意識を持つことができている。 ○ 科学的探究能力をもつ生徒を一定程度育成することができている。 ○ 開発している教材について、誰もが使用できるように情報発信を行う必要がある。 ○ 高大連携に限らず、高大接続の取組を期待する。

35	大分県立大分舞鶴高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH事業により，地域との連携が図られるとともに，生徒の科学や学問への探究心が向上している。 ○ 論理的思考力に関する評価方法等に課題があり，専門家の助言などを踏まえ適切に改善する必要がある。 ○ 理数科の成果を普通科へ拡大することが必要である。 ○ 生徒による授業評価，教員の相互授業参観などは，重要な取り組みであり，地道に継続することを期待する。
36	鹿児島県立錦江湾高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学的探究力育成を充実したカリキュラムを構築している。 ○ 作成された実験書など，オリジナルの教材等積極的に情報発信する必要がある。 ○ 理数科においてSSHの良さを十分生かした充実した理数教育を実施しており，普通科へ拡大することを期待する。 ○ 課題研究について，指導者側の指導可能領域により生徒のテーマが限定されることなど含めて，課題研究のあり方に関する検討を期待する。